

世界一の長寿社会になった香港

東京外国語大学教授 澤田 ゆかり

「香港の平均寿命が日本を抜いて世界一に」という報道が流れたのは、2016年の夏でした。男性の平均寿命は2002年にすでに逆転していたのですが、2015年の数値で女性も香港が世界一となったことから、改めて注目を浴びました。

この原因としてマスコミが取り上げたのは、まず「医食同源」にもとづく食生活です。街頭に並ぶ「涼茶」や漢方薬局がよく紹介されました。また「儒教の敬老精神」や「中国的な家族の絆の強さ」といった文化も強調されました。超過密都市である香港は、居住空間が狭くてストレスが高いのですが、家族の行き来には便利で、週末ごとにレストランで飲茶を楽しむ大家族の姿が見られます。それ以外に、喫煙者の急減に着目する向きもあります。香港の喫煙者の比率は、男性19%・女性3%で、日本の男性30%・女性10%を下回っています。また医療面では、公立病院による安価な医療サービスが、高齢者の健康に寄与したといえます。

ただし、一人当たりGDPと同じように、そもそも規模の小さい国・地域のほうが高い数値になる傾向がある、という点も見逃せません。日本の厚生労働省の生命表では、人口50万人の杉並区の平均寿命(2010年)は、女性88.2歳、男性81.9歳です。これは2015年の香港(女性87.32歳、男性81.24歳)を上回っています。

また現在の香港の高齢者は、中国大陸

から戦禍や飢饉を逃れて移動してきた者が多く、香港で出生届を出していません。このような条件のもとで、正確な年齢を把握するのは容易ではありません。1971年の国勢調査では、住民が自己申告する年齢がキリの良い数字(下1桁が0か5)や縁起の良い偶数(下1桁が2と8)に偏ってしまい、逆に奇数は忌避されるという傾向が指摘されています。

一方香港政府は、広東省と福建省で老後を過ごす住民に対して、高齢者向けの公的給付金を受け取りやすくする政策を打ち出しています(写真)。こうした変化も、今後の香港の高齢化に影響を与えると思われます。



香港政府社会福利署WEBページより、広東省で高齢者手当を受給できる「広東計画」の案内

2017年4月発行(禁無断転載)

目次

世界一の長寿社会になった香港	1
香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部(ETO)	
首席代表 翁佩雯(シェリー・ヨン)氏に聞く	2
日本各地に広がる協力関係の輪 ～富山・福井両県とMOU締結～	4
香港春節レセプション	5
香港の歴史 (1)創世記と名称の由来	6
全国連合会・各協会便り	
東京: 香港杯全日本大学 学生大使 英語プログラム	7
関西: 2017年度総会とチャイニーズ・ニュー・イヤヤー・パーティー 香港春節セミナー2017	8
中京: 第137回理事会「平成28年度事業報告」と「平成29年度事業計画」/イベント並びに「平成29年度事業計画」	9

九州: 福岡県人会のネットワークで広がる香港ビジネス	10
山形: 再設立(発起人会・理事会)のご報告	11
北海道: 「香港ビジネスセミナーin釧路」を開催	12
宮城: 2017春節セミナー&パーティーを開催 広東語教室で恒例の春節パーティーを開催	13
沖縄: 石嶺伝一郎氏が新会長に就任 春節・香港ビジネスセミナー2017 in 沖縄 開催	14
広島: 日本香港協会全国交流会に参加/香港広島県人会との懇親会を開催/春節意見交換会を開催	15
新潟: 香港フォーラム2016へ参加 2017年春節セミナー&パーティーを開催	16
高知: 初めての「春節セミナー&パーティー」開催	17

香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部（ETO）首席代表 翁佩雯（シェーリー・ヨン）氏に聞く

聞き手：日本香港協会理事長 原田 光夫

旧正月に因んで去る2月13日、東京都千代田区のETOで行う。

——首席代表として2017年の活動の方針と予定をお聞かせ願います。

翁 貿易・文化・観光・人の往来などの面で、香港と日本の関係と友好を深めるべく引き続き取り組んでいきます。それに今年は香港特別行政区設立20周年に当たる節目の年であり、日本各地でさまざまな活動を予定しています。具体的には、4月に香港フィルハーモニー管弦楽団の大阪公演、香港科技大学のトニー・チャン学長を招いてIT関連のビジネスセミナー、7月にはガラディナー、アジアユースオーケストラ東京公演、9月末から10月にかけて以前開催して好評を得た香港ミニチュア展、10月にはシティ・コンテンポラリー・ダンス・カンパニーの新潟公演、香港貿易発展局（TDC）との共催によるファッションショーなどを企画しており、これらを通じて日本の皆さんに香港の多面的な魅力を紹介したいと思っています。

——今言われたように今年は香港が中国に返還されて20周年に当たります。香港経済の展望をお聞かせ願います。

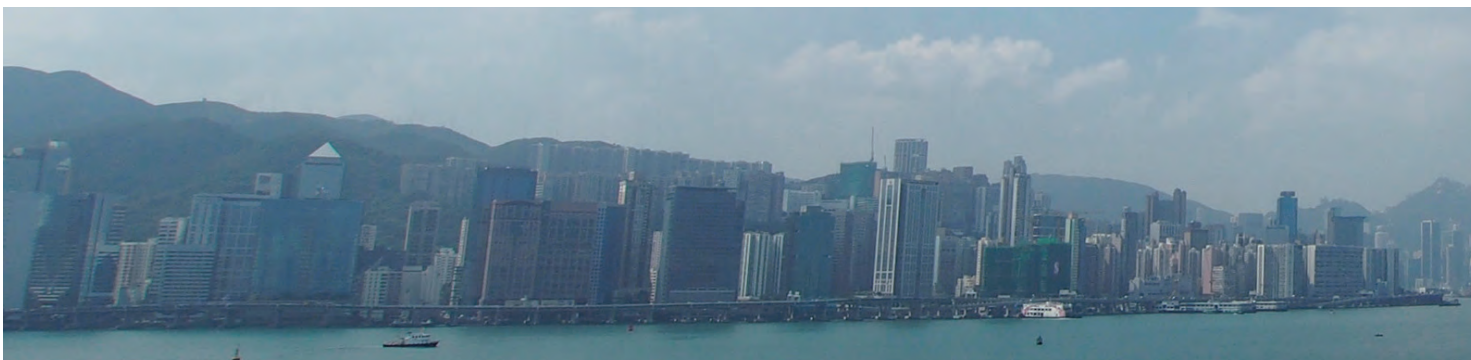
翁 香港は返還後も一国二制度の下で力強い発展を続けています。この20年間にはいろいろな課題に直面しました。特に大きなものは1997-98年のアジア通貨危機、2003年のSARS（重症急性呼吸器症候群）、2008年の世界金融危機でしたが、香港はこうした荒波を乗り切って経済回復を成し遂げました。また香港は資本主義体制を保っており、各種国際調査において経済の自由度と競争力で世界一と評価されています。



一国二制度のメリットの一つに、2003年に中国本土との間で締結したCEPA（経済貿易緊密化協定）がありますが、これにより貿易・金融・観光を含む48業種で中国本土市場への優遇アクセスが認められています。香港に登録した企業であれば、親会社の国籍は問わないので、日本企業も大いに活用して頂きたいと思っています。香港はそのユニークな利点を生かし、“スーパーコネクター”として中国と諸外国との橋渡しの役割を果たしていきます。香港経済の今後ですが、IMFは2017年のGDP成長率を1.9%と予測しています。インフレ率も2.3%と緩やかで、経済は総じて安定的な成長が見込まれます。

——日本香港協会に何を期待しますか？

翁 先ず、日ごろのご協力に感謝を申し上げます。今後とも経済・貿易面での香港と日本の関係強化のみならず、文化交流、人の往来促進へのご支援を期待します。昨年は約100万人が日本から香港を訪れています。この人数がさらに増えることを願っています。一



<年頭インタビュー>

方、同じく昨年度に日本を訪れた香港人は180万人に上ります。人口が700万人なので実に4人に1人が日本を訪問したことになります。

——香港人は円安を利用して上手に買い物していますね。

翁 そうですね。結果として香港から日本の諸都市への直行便が増えています。最近鳥取と高松が加わって現在は14都市に広がっています。

——日本の印象と駐在中にやりたいことをお聞かせください。

翁 あまりに多すぎて困ってます（笑）。出来るだけ多くの県・地域に足を運んで、それぞれの地方の独特の文化に触れたいと思っています。先週は札幌の雪まつりに出張で行ってきました。今月と来月は関西日本香港協会主催のパーティ出席を含めて大阪に2回行きます。大阪も京都を含めた他の都市と違った文化があ



ると感じています。

——日本には四季があって、しかも南北に長い国です。

翁 その通りです。各地で四季の違いを感じます。昨年3月に着任した際には桜が満開で、秋には美しい紅葉を楽しみました。高尾山にも登りました。それに日本人は親切だけでなく、お茶にしても寿司にしても誇りをもって仕事に集中しています。これは世界でもユニークです。また、日本人は文化保護に熱心なのが特徴です。歌舞伎や相撲などは各世代にリーダーがいて、世代間で引き継がれています。実に素晴らしいことです。伝統文化を大事にする点は中国より進んでいると思います。

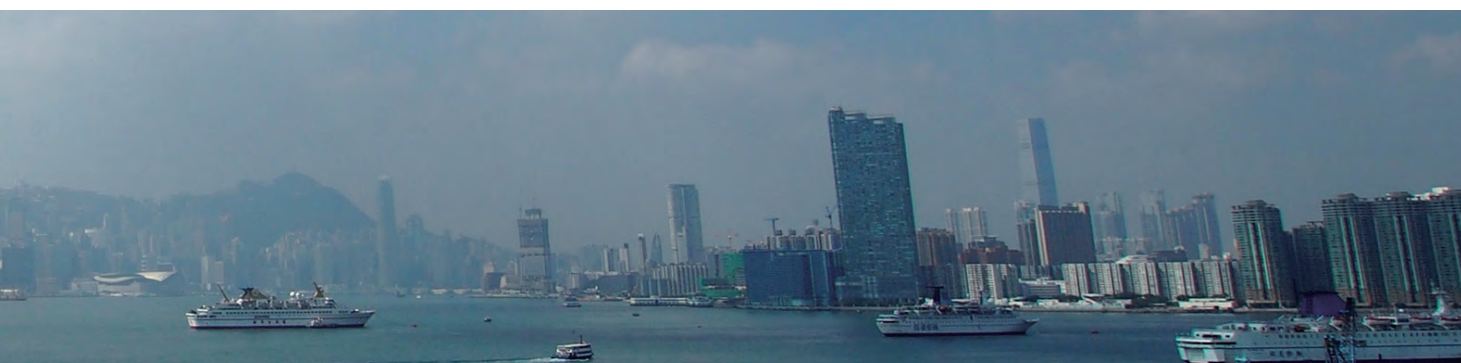
——現在香港には1,300社以上の日本企業が進出して、その殆どが大陸と商売をしています。大陸に模造品が出てきてパテント侵害が起きた場合、香港政府は日本企業を守ってくれますか？

翁 かかる係争に備えて定款や合弁契約に香港の裁判所で裁定することが明記されていれば、香港の知的財産保護法制が日本企業を守ります。

翁佩雯 (Shirley Yung) 氏

職歴：1997年：憲政事務省首席補佐官（選挙事務担当）、1999年：駐米国ワシントンDC香港経済貿易代表部副代表、2003年：財政長官の予算演説作成者、2004年：教育人材長官政務補佐官、2007年：政務長官官房行政副署長、2010年：保安省事務次官補

学歴：香港大学社会科学士（優等学位）、ロンドン大学法学士（優等学位）、オックスフォード大学大学院課程（行政学）、ハーバード大学ハーバード・ビジネススクールAMP（上級マネジメントプログラム）



日本各地に広がる協力関係の輪 ～富山・福井両県とMOU締結～

香港貿易発展局東京事務所 コーポレート・コミュニケーション&マーケティング・マネージャー 米岡 哲志

香港貿易発展局は2月14日に富山県、翌15日に福井県と、経済・産業分野などで包括的な協力関係を構築することで合意し、覚書（MOU）を締結しました。今後、両県と香港間で貿易をはじめとしたビジネスが一層拡大するよう、産業情報の提供やさまざまな交流機会の創出に取り組みます。また、展示会やビジネスセミナーなどを香港または両県で開催する際にも、十分な連携を図ります。特に食品（両県）、伝統工芸品（両県）、日本酒（富山県）、眼鏡（福井県）などの分野について、双方の企業間交流の促進に努める方針です。

富山県との署名式には、香港本局から周啓良（ベンジャミン・チャウ）上席副総裁、県からは石井隆一知事が出席しました。署名後の記者会見には地元メディアが多数参加し、富山テレビ放送、北日本放送、チューリップテレビ、日本経済新聞、北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞などが本件を報じました。

石井知事は2004年11月の知事就任以来、実に3度も香港を公式訪問し、香港での富山県のPRに努めてこられました。その結果、富山県の香港での知名度は年々向上。県内の主要宿泊施設に投宿した香港人旅行者の数は2015年に26,479人と、2010年の8,546人からわずか5年で3倍に増加しました。

香港からの観光客に人気があるのが、日本有数の山岳観光ルートとして名高い立山黒部アルペンルート、世界遺産に登録された五箇山合掌造り集落、全国でも珍しい昼セリが行われる新湊きつときと市場といった定番スポットです。これに加え最近では、雪景色が楽しめる冬季の庄川峡湖上遊覧船、独自の技術で一年中満開の花が鑑賞できるチューリップ四季彩館、同県の

定番スポットともいえる黒部峡谷のトロッコ電車なども、人気が高まっているとのこと。

また、食に目がない香港人旅行者に人気なのが、富山名物のますずし、氷見産の天然ぶりを使ったしゃぶしゃぶ、富山湾で採れるズワイガニといった海産物だそうです。富山県はこうした豊富な食を海外に売り込むため、香港貿易発展局が毎年8月に開催する食品展示会「フード・エキスポ」に県としての出展ブースを開設し、地元企業を支援しています。石井知事は2014年と2016年に同展示会に参加し、トップセールスを行っています。一方、11月に開催する酒類の総合展示会「香港インターナショナル・ワイン&スピリッツ・フェア」でも、皇国晴酒造（黒部市）、トンボ飲料（富山市）、天野漆器（高岡市）、能作（高岡市）といった県内企業の出展実績があります。

他方、福井県との署名式には、周上席副総裁と西川一誠知事が出席しました。こちらも日本経済新聞、中日新聞、産経新聞、福井新聞、日刊県民福井などで記事に取り上げられました。

西川知事は2003年4月の知事就任以来、香港との連携に配慮され、2016年11月の外遊では香港貿易発展局との協議にも参加されました。香港に進出している県内企業は繊維、眼鏡を中心に22社あり、中国にある工場の生産管理や欧州への営業活動などを行っているといえます。福井県は中国本土やアセアン諸国への玄関口となる香港の機能に着目し、香港を通じた県産品の輸出拡大に取り組む狙いです。

香港の松田邦紀大使兼総領事は同県出身で、県内企業が多数出展する11月の「香港オプティカル・フェア」では毎回、会場内で県の出展者を励まして回られ



富山県での覚書調印式



福井県での覚書締結式

ます。大使によると、香港では越前ガニ、眼鏡などで福井ブランドが定着しているほか、福井の梅を使用した梅酒、漆器の食器、和紙のキッチンウェアなど、食に関連する工芸品などで販路拡大が期待できるそうです。

福井県は中華圏からの訪日観光客に向けて、若き日のスティーブ・ジョブズ氏が出家を考えたと伝えられる曹洞宗の大本山・永平寺での寺修行、県を代表する名湯の芦原温泉、恐竜化石が数多く発掘される勝山市に建てられた福井県立恐竜博物館を3本柱に観光PRを行っています。

観光庁が発表した宿泊旅行統計調査によると、2015年の都道府県別外国人延べ宿泊者数（確定値）では、全国47都道府県中、富山県が28位（21万人）、福井県が46位（6万人）でした。一方で両県を訪れた外国人延べ宿泊者数を出身国・地域別（上位3カ国・地域）で見ると、富山県が台湾（36%）、香港（18%）、中国本土（10%）、福井県が中国本土（32%）、台湾（25%）、香港

（14%）と、いずれも香港がベスト3に食い込みました。

日本全体の同年の外国人延べ宿泊者数は総勢6,051万人。このうち香港は中国本土、台湾、韓国に次ぐ第4位（481万人）で全体の7.9%を占めました。香港人観光客の大部分は訪日観光のリピーターで、東京、大阪、京都といった定番の観光地はとくに「制覇」しており、より外国人観光客の少ない土地に魅力を感じると言います。今回の両県との提携が、香港人観光客の両県へのさらなる訪問につながることを期待されます。

香港貿易発展局は2013年7月、都道府県では初めて、和歌山県と協力の覚書を締結しました。その後、14年8月に沖縄県、16年7月に三重県と同様の覚書を交わしました。これらの県はいずれも弊局が主催する各種展示会に県内企業が多数出展しており、知事自らが展示会でトップセールスを行うなど、香港を活用した県内企業の輸出拡大に力を入れています。弊局はこれからも、日本の各自治体との協力関係を深め、香港と日本の経済・産業交流の促進に尽力してまいります。



日本語Facebookページで香港の最新情報を配信しています。右のQRコードでご登録ください。



香港春節レセプション

2月9日（木）にANAインターコンチネンタルホテル東京で「香港春節レセプション」を開催しました。政官財界などから500人を超す来場者が集い、春節を祝いました。

香港春節レセプション Hong Kong Spring Reception 2017
2017年2月9日（木） ANAインターコンチネンタルホテル東京・プロミネンス



左から香港経済貿易代表部投資推進室（インベスト香港）室長佐々木由紀雄、香港貿易発展局日本首席代表林蘇珊（スーザン・ラム）、衆議院議員三原朝彦、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部首席代表翁佩雯（シェーリー・ヨン）、香港政府観光局日本局長堀和典の各氏

香港の歴史 (1)創世記と名称の由来

NPO法人日本香港協会理事長 原田 光夫

飛龍の読者の皆様は「香港」がどのような歴史の変遷を経て今日に至っているのか、また「香港」の名称の由来についても興味を持たれる方々多くおられると思います。筆者も弱冠20歳過ぎに初めて香港を訪れて以来、数えきれない頻度で往復しております。昨今、古代香港の歴史を調べる興味に駆られ可能な限りの書籍や文献を漁って参りました。

有史以来、中国大陸の比較的南部に位置する現在の広東省（嶺南一帯）には新石器時代の先住民越族が生活を営んでいた記録が香港歴史博物館で確認でき、香港には数千年の人類の生活があったと記録展示されており、その多くが海岸近くの砂丘に住居を持ち暮らしていたことが分かっています。また後年、陶器や青銅器の時代があり海岸には塩田もあって高度な生活が営まれていたようです。食料は海で採取できる魚介類をはじめ内陸で栽培した粟や古代米を中心に芋類、野菜等や野生動物を食べていたようです。

さらに紀元前、秦の始皇帝の時代に現在の広東省地区は南海郡と定められ、漢民族が支配していた時代がありました。比較的進んだ文化とともに多くの技術がこの地にもたらされたとの記録が残っています。続いて、秦の滅亡と南越国独立の時代があり、さらに漢の武帝が南越国を滅ぼし、唐の時代までの間は香港周辺の記述は歴史文献から消えており、未だ発見されていません。唐の時代には青山湾が沿岸守備に駐留する軍隊の駐屯地として栄え、その後の宋代には珠江デルタ地域の開拓が進み、嶺南地域は次第に発展することになります。香港地域と嶺南地域は同時進行して発展し、現在の新界に鄧族が移住してきたのもこの時代でした。

仏堂門（鯉魚門）も福建船の寄港地となっていたようですが、依然として先住民の居住地でやがて漢民族の漢土に編入されてゆく時代でした。清の時代1688年には新安縣（現在の香港・深圳地区を含む行政区画）の公文書『新安縣志』で初めて香港村の記述が見ることができるので、これが公式な香港の呼称となったのではないかと思います。



香港歴史博物館に展示されている先住民の暮らし



香港東側の海の入口、仏堂門は東龍洲付近の海峡

一方、『改變香港歴史的60篇文献』には香港名称由来を記す「嘉慶新安縣志卷三（輿地路物産）」のページがあり、この地域一帯には東莞縣や新安縣を中心に香樹（香木）が採取されたと記録されています。これらの香木を中国各地に海上運搬する目的で、当時香港島に20の寒村が点在していましたが、その一つが現在の香港仔、深水湾周辺を総称して「香木の積出港」「香のみなど」「香港」と称されるようになったことが信頼できる説のひとつであると伝承されています。

明から清の時代、香港は海賊の跋扈する島々で、香港島とランタオ島には3万人の海賊がいたとも言われています。その後歳月が過ぎ、1837年には英国海軍が広東省虎門を砲撃し、英国は清政府に貿易取引の開始を強いることとなります。それ以後は近代史に続き、アヘン戦争の時代に突入してゆくこととなります。アヘン戦争時代以降近代までの歴史は次号以降に続けます。

参考文献

- 香港史地（第1巻～第4巻） 香港史学会
- 香港歴史探究 三聯書店
- 改變香港歴史的60篇文献 中華書局



かつて香港仔など香港島南岸は香木の積出港でもあった



NPO法人日本香港協会広報委員長 藤澤 慶彦

香港杯全日本大学 学生大使 英語プログラム

去る1月22日、2016-2017年の表題会が香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部（ETO）主催、The Japan News共催で東京都中央区で開催された。後援は外務省、文部科学省、読売新聞東京本社で、協賛がキャセイパシフィック航空、大昌貿易行、香港貿易発展局、香港政府観光局、香港中文大学などである。

全国からの予選を勝ち抜いた15人のスピーカーによって優勝が争われた。形式は4つのテーマ（ビジネス／Business、ワーキングホリデー／Working Holiday、映画／Movie、グルメ／Cuisine）から自分の好きなテーマをひとつ選んで英語で6分以内で話し、その後4人の審査委員から3分間の質問を受ける。言わば英語をベースに構想力、アピール力、実現性が問われる大会であった。

優勝は小西夏香さん（慶應義塾大学、テーマ：ビジネス）2位は白井美羽さん（武庫川女子大学、テーマ：ビジネス）3位は水上遙さん（東京外国語大学、テーマ：ワーキングホリデー）であった。敢闘賞を含む4人は学生大使として香港に招待されて香港中文大学を拠点に香港の学生・官庁・企業での交流を深め日香親善に努めることになっている。

優勝した小西さんのスピーチは、先ず香港が国際的に開かれた多様性を持っていることに着目すること、次に香港企業と連携して日本人のアイデアをグローバルビジネスに育成する会社を提案した。2位の白井さんはバスガイドよろしく可愛い車掌用キャップを片手に観光用ミニバスならぬ香港コミュニティを広く世界に知らしめるための「コミニバス」を提案して、会場の雰囲気をも明るくした。

今回の大会で感じたことは、予選を勝ち抜いた15人のうち12人が女性であったことで、今後国際的舞台上の日本女性の進出が期待されること。2人の中国人を入れるとほぼ半数が小さい頃に英語をしゃべった言わば帰国子女で、英語力だけをとれば入賞者より上手であった人が、必ずしも入賞していない。当然とは言え、3人の外国人審査委員（香港・英米）は単に英語力だけではなく日本人のアイデンティティを生かしたスピーチを選んだことになる。審査委員の講評にも“Sustainability”（維持・継続性）と、学生ならではの“Opportunity”（機会）を規準にしたという内容であった。将来この辺を理解できる帰国子女が出てくると、この大会のみならず、日港親善が更に深化するように感じた。

なお、来年から日本香港協会は支援団体のひとつとして参加する予定である。



表彰式記念写真



関西日本香港協会 事務局

2017年度総会とチャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティー

2月21日にヒルトン大阪で2017年度総会とチャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティーを開催しました。20名が参加した総会では、永年協会の発展に尽力された木全千裕会長が退任されて名誉顧問として引き続きご支援いただくことになりました。後任の会長には関西日本香港協会設立当初から永年協会の運営に携わってこられた戒田真幸氏が就任されました。理事の辻昇氏の副会長就任と田島等氏の事務局長兼文化部長就任も承認され、16名の役員で今年度の充実した事業を実施することになりました。

チャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティーは117名が参加し、今年も盛会でした。パーティーは木全会長の開会の挨拶のあと、新任の戒田会長が紹介されました。引き続き、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部の首席代表、シェーリー・ヨン氏の来賓挨拶、香港貿易発展局の日本首席代表スーザン・ラム氏の歓迎挨拶があり、中華人民共和国駐大阪総領事館の経済商務室長領事の孫淑強氏が乾杯の音頭をとられ会食に入りました。食事はヒルトン大阪の中華料理「王朝」の旧正月特別料理を楽しみ、関西の官界、財界のVIP招待客や会員の皆さんが積極的な交流で親睦を深めました。

アトラクションは、二胡の弾き語りシンガーソングライターとして国内各地、台湾・香港・中国などでも活躍している里地婦（さとちき）氏の優雅な二胡の演奏と楽曲との美しいハーモニーが参加者を魅了しました。お楽しみのラッキードローでは、理事企業や会員企業、来賓者から合計88個の景品提供があり、特別賞のキャセイパシフィック航空提供の香港行き往復ペア航空券の抽選の際には場内が最高に盛り上がりました。

最後に当協会副会長の田中義次氏が協会を盛り上げる熱い思いを込めた閉会の挨拶をされて楽しかったパーティーを終了しました。



チャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティー2017

香港春節セミナー2017

「一大消費市場：香港の魅力、香港からアジアへ」をテーマにした春節セミナーを2月21日ヒルトン大阪で開催しました。セミナーは香港貿易発展局と共同主催し、大阪商工会議所が共催者となり、近畿経済産業局や関西経済連合会などの経済団体に後援していただいた結果、約130名が参加する有意義なセミナーを盛会裡に実施することができました。

講演1：「アジアのビジネス・ゲートウェイ：香港を通じて世界へ」 香港貿易発展局大阪事務所長 伊東正裕氏

伊東氏は、参加者に香港をよく知ってもらうために先ず統計データなどにより香港の貿易や小売業者の現状、特に日本と関係の深い飲食業・食品輸入など拡大する消費市場を詳しく説明し、日本企業に香港でのビジネスチャンスが多いことを強調されました。続いて、中国南部大珠江デルタ地域やアジア経済圏の発展の様子を豊富な資料により解説し、今香港で最大の関心事になっている中国の「一帯一路」構想が動き出したアジアに於ける戦略的重要性として香港が担う機能①中国本土へのゲートウェイ、②華人ネットワーク（グレートチャイナ、東南アジア等）へのゲートウェイ、③国際社会（欧米等）へのゲートウェイ、としての香港の戦略的重要性を強調され、最後に日本香港協会を紹介していただきました。

講演2：「80前世代と80後世代～ライフスタイルから考察する香港の食文化と習慣」 中医学博士、南京中医薬大学教授、東方美学研究院院長、世界中医薬学会連合会亜健康專業委員会常務理事 楊さちこ氏

楊さちこ氏は、大阪生まれで香港在住、日本、香港・中国におけるアジアンコスメブームの火付け役第一人者としても知られ、高品質の漢方美容・健康薬の開発も手がけられて健康講習会を展開したり、美に関するトータルプロデューサーとして確固たる地位を築いて活躍しておられます。日本人と並んで世界一長寿の香港人の長生きの秘訣を香港人の日常生活、医食同源の慣習などから鋭く観察され、1980年代以前の香港人の生活習慣である「冷たいものは飲んだり食べたりしない」が加工食品を食べたり冷たいものを飲むようになった1980年代以後の世代にも引き継がれていると言われました。人間の身体を花にたとえて、大事に育てるためには栄養を吸収できる身体が大事で、「冷えは万病の元」、身体を冷やさず常温を保ち、身体を乾燥させず水分をよく摂ることの大切さを説かれました。賢い生き方の香港人と香港が大好きになられた楊先生の興味深い有意義な講演でした。



香港春節セミナー2017 楊さちこ氏（中央右）ご夫妻とスーザン・ラム氏、関西日本香港協会理事の方々



中京日本香港協会 事務局長 佐藤 亮一

第137回理事会「平成28年度事業報告」と「平成29年度事業計画」

平成29年1月17日、第137回理事会が名古屋商工会議所にて21名の理事出席のもと開催され、上記議題が報告、承認された。また、事務局からは昨年末の香港フォーラムの様子が報告された。香港フォーラムへは中京日本香港協会から11名の会員が参加し、現地での日程、活動内容、また特筆すべきこととして、ベストイニシアチブ賞を受賞したことが報告された。貿易発展局のご協力のもと、平成27年11月26日に名古屋で開催された「香港・中部ビジネスシンポジウム～国際化へのパートナー・香港～」という、地域の官界・財界のトップを含め500名もの参加者を集めた大規模なイベントが評価され、今回の受賞に至った。メインシンポジウムでの中部地方の中堅・中小企業に対して香港を足掛かりにしたアジア市場進出の提案、分科会での食品と伝統工芸品の香港市場参入の成功事例が紹介され、香港の優位性を十分アピールしたイベントとして高く評価された旨、会員・理事に詳細を報告した。この場をお借りして再度香港貿易発展局および関係各位に深く御礼を申し上げたい。

イベント並びに「平成29年度事業計画」

◆箏曲を聴く会

昨年11月17日、第6回中京バウヒニア倶楽部主催の「箏曲を聴く会」が、大名古屋ビルヂング33階の東海東京証券「オルクドル」にて開催された。香港・中国の参加者を含め23名が参加、琴・バイオリン・尺八と3種の音曲の特別なハーモニーに酔いしれる時間を設けることができた。

◆春節懇親会パーティー

平成29年2月7日、新年を迎えて、恒例の春節懇親会パーティーが香港貿易発展局日本首席代表スーザン・ラム氏を迎え、開催された。パーティーに先立ち、全理事出席のもと、総会が開催され、第137回理事会で承認された平成29年運営方針・企画についての各事項が、全員の了解の上承認された。総会の席上でも、平成27年11月のビジネスシンポジウムが香港貿易発展局および関係者各位のご協力のもと、香港フォーラムにおいてベスト・イニシアチブ賞を受賞した旨を理事・会員に詳細報告した。また、現在、世界的話題となっている米国、韓国の社会・政治情勢が混迷化している状況下、中国・香港の動向にも関心を持つ



箏曲を聴く会

会員からの質問もあり、活発な総会となった。事務局としても、極力情報収集や伝達に努めてゆきたい。

その後、会員間の名刺交換会・親睦会が102名参加者を得て賑やかな開催となった。ゲストも首席代表のほか中華人民共和国駐名古屋総領事館総領事鄧偉氏、農林水産省東海農政局局長田辺義貴氏、経済産業省中部経済産業局局長波多野敦彦氏など、多数の方にご臨席いただき、来賓からご挨拶を頂いた。また、アトラクションとして津軽三味線、ライオンダンスの余興もあり、後半にはキャセイパシフィック航空協賛の航空券のほか、各理事、会員企業からの寄付による参加者大多数に当たるという抽選会もパーティーに一層の華を添え、中京日本香港協会の年明け初イベントにふさわしい華やかなものとなった。



春節懇親会パーティー

日本香港協会全国連合会

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-4 トラストイ麹町ビル6階
香港貿易発展局 東京事務所内
電話 (03) 5210-5901 FAX (03) 5210-5860

NPO法人日本香港協会(東京) 電話 (03) 5210-5870
〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラストイ麹町ビル6階
香港貿易発展局内

関西日本香港協会 電話 (06) 4705-7030
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内

中京日本香港協会 電話 (050) 3620-2517
〒460-0003 名古屋市中区錦2-11-27 TH錦ビル8階 株式会社喜喜斎内

九州日本香港協会 電話 (092) 451-8610
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2丁目9-28 会議所ビル1階
地域企業連合会 九州連携機構内

山形日本香港協会 電話 (023) 665-4212
〒990-2301 山形市蔵王温泉丈二田752-2
ユニテ蔵王ジョーニダ・リゾート内

北海道日本香港協会 電話 (011) 261-4288
〒060-8661 札幌市中央区大通西3-7 北洋銀行国際部内

宮城日本香港協会 電話 (022) 212-5550
〒980-8520 仙台市青葉区一番町3-7-23 明治安田生命仙台一番町ビル3階
(株)JTB東北本社 営業部内

沖縄日本香港協会 電話 (098) 8686-3758
〒900-0033 那覇市久米2-2-10 那覇商工会議所内

広島日本香港協会 電話 (082) 248-1400
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ3階
(公財)ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内

新潟日本香港協会 電話 (025) 365-0001
〒951-8052 新潟市中央区下大川前通四ノ町2186番地 愛宕商事株式会社内

高知日本香港協会 電話 (088) 856-9112
〒780-0822 高知市はりまや町1-7-7 川村ビル4階
株式会社ティーエルホールディングス内

URL <http://www.jhks.gr.jp>



福岡県香港事務所 所長 藤木 重尚

福岡県人会のネットワークで広がる香港ビジネス

1. 香港福岡県人会について

香港福岡県人会の歴史は古く、福岡県出身者、居住経験者のほか福岡でのビジネスに関心のある方々の懇親を深めるために行っている交流会は、2017年3月で163回を数える。現在、年3回（3月、7月、11月）開催している交流会では、故郷に思いを馳せるだけでなく、参加者の間でビジネスに関する情報交換や具体的な商談のきっかけとなるなど、ビジネス交流の場としても活用されている。

また交流会での情報交換等を通じた会員同士の結びつきは非常に強く、当事務所に寄せられる県内企業等からの相談の多くは、県人会会員のネットワークにより対応していただけることが多いなど、県内企業等の海外展開における重要なプラットフォームとなっている。

特に近年は企業駐在員だけでなく、香港で起業した若手・中堅ビジネスマンの参加も増えてきており、経営者としての情報交換も積極的に行われている。

2. 県人会ネットワークを活用したビジネス展開

これまで香港福岡県人会のネットワークを通じて実施した県プロジェクトや県内企業の香港ビジネス展開事例を紹介したい。

はじめに、香港に進出している福翔貿易有限公司は、福岡県出身の県人会会員が香港で起業した貿易商社で、主に福岡の魚介類や野菜、果物を香港に輸出している。同社の顧客は、香港でも有数の高級レストランが多く、本県が行う福岡県産品の輸出促進事業に対し大きな支援をいただいている。

香港市場は、日本からの農林水産物が最も多く輸出されている地域であり、福岡県産品を含む多くの日本産農産物が競合している。このため福岡県では、他地域との差別化のためのブランディングに力を入れている。福岡県産品は、香港との距離の近さや航空路線の充実により、特に鮮度の点で競争力が高く、高級レストランのシェフへの大きなアピールポイントとなっている。

そこで福岡県では、高級レストランのシェフを福岡に招へいし、高級食材の産地としての福岡県産品のブランディングを行っている。このシェフの招へいに関して、福翔貿易有限公司から、シェフの紹介や実際の依頼、県内への同行など、多大な協力をいただいている。

さらに、近年多くの自治体や企業において、香港からのリーガルウェディング*およびウェディング写真撮影などを誘致する動きが活発化している。当事務所では以前より、県内のリーガルウェディング情報や写真撮影スポット等の発信を通じて、ウェディングの誘致に力を入れている。そして、香港でのPRについて、県内企業よ

り協力の依頼があった際には、県人会会員が経営する香港のウェディングサービス企業とのマッチングなどを行い、既に共同で福岡でのウェディング事業を始めるなど実績も出ている。

また、県人会会員が経営したり、料理長を務めたりしているレストランにおいては、福岡県産品を積極的に扱ってくださる店舗が多く、香港市場への入口として協力いただいている。これまでに、あまおうを使用したワインや県産日本酒、焼酎のほか、八女茶、野菜、果物、味噌などをはじめとした加工品など、多くの福岡県産品を使用して福岡の味を香港で提供していただいている。

さらに福岡県出身者の大将が腕を振るう寿司店では、福岡県産の農水産物を提供するだけでなく、福岡県大刀洗町産の野菜を定期的にPR、販売させていただくなど、当事務所や県内自治体を実施する事業に関して多大な支援をいただいている。

*リーガルウェディング…海外のカップルが、日本の法律に基づき市町村の窓口で婚姻手続きを行い、「婚姻届受理証明書」を発行してもらうこと。親族などが同時に訪日するため経済効果が高いとされる。

3. 福岡県人会のネットワークで広がる香港ビジネス

このような事例のほかにも、県人会には弁護士や公認会計士といった専門職や、不動産、金融業界などに従事している会員もおり、様々な分野で活躍する会員が、それぞれのビジネス上の強みを持ち寄り、互いに助け合うことでさらに飛躍していく関係を構築している。

これは、異国の地で成功した先人が、同郷出身者を応援することで、各地でビジネスを拡大してきたと言われる華僑が構築した関係と同じであり、活発な活動には他県県人会から「香港福岡県人会が最も活発に活動している」との評価をいただいている。

今後とも当事務所は香港福岡県人会を支援していく所存である。香港での事業をお考えの市町村や県内企業におかれては、ぜひ当事務所を通じて、香港福岡県人会を活用していただきたい。



福岡市中央卸売市場青果市場で県産野菜を試食するシェフ



山形日本香港協会 事務局

再設立（発起人会・理事会）のご報告

山形日本香港協会が再設立することとなり、去る2月17日（金）に発起人会・理事会を開催いたしました。山形県経営者協会、山形商工会議所、JA山形中央会のトップ他20名が発起人会を結成し、経済交流に力を入れるために、新たに組織として、再設立したもので、会長には、発起人の1人で在香港日本総領事館での勤務経験がある大沼みずほ参議院議員が選出され就任しました。役員には、山形を支える政財界の方々を迎えての再スタートになります。

理事会では、「新組織」「新規約」「平成29年度事業計画・収支計画」が承認され、「新規会員募集要項について」「事務局について」の規定についても承認されました。

引き続き、記者会見が行われ、報道関係機関十数社が来場し、TV・新聞・地元メディアに報道されまし

た。香港への県産農産物の輸出促進とインバウンド（訪日外国人客）の受け入れ拡大を目指し、方針の説明やFood Expoの重要性や仙台空港への香港便就航の復活を働きかけ、東北全体の活性化を視野に入れた考えを発表し、今までにない注目を浴び、期待がかなり高まった会見でした。

今後につきましては、本部イベントに連動した運営のほかに、当会独自のイベントも計画されており、当協会が地味な存在から一転して、全国連合会の各協会様と同等に活躍できることを実感した瞬間でもありました。大沼会長の独自イベントや強力なリーダーシップが発揮されることと想定されますし、会員の大幅な増加も見込まれますので、事務局としてついていけるように努力して参りたいと思う次第です。

今後も、皆様のご協力並びにご鞭撻の程、宜しくお願い致します。



大沼みずほ新会長の記者会見



発起人の記者会見の様子



発起人会・理事会の様子



北海道日本香港協会

「香港ビジネスセミナーin釧路」を開催

2016年12月13日、釧路工業技術センター会議室において、香港貿易発展局の主催、北海道日本香港協会の後援で「香港ビジネスセミナーin釧路」が開催されました。

2015年度の道東4振興局（釧路総合振興局、十勝総合振興局、オホーツク総合振興局、根室振興局）エリアの訪日外国人宿泊客数は400,394人（前年比138.2%）と、世界から日本へのインバウンド観光客も道東を目指して確実に伸びてきています。また、日本からの農林水産物・食品の輸出先として、アジアのゲートウェイである香港向けが、2015年も引き続きトップとなっており、前年比34%増の1,794億円であり、輸出総額（7,451億円）の約4分の1を占めています。そこで、今回のセミナーでは、観光誘致、食品並びに技術をテーマに、今後の海外展開についてのヒントやアイデアを提供できればという思いで、それぞれ専門的な知見をもった講師からご講演をいただきました。

札幌以外の都市としては、昨年の帯広に続き、2回目となる地方都市での開催で、会場には55名の参加者が集まり、釧路地域の企業、関係機関の皆さまの関心の高さがうかがえました。最初に、香港貿易発展局東京事務所次長兼マーケティングマネージャーの門田弘蔵氏から、香港市場の最新情報についてご説明いただきました。香港は、アジアの中心に位置する戦略的なロケーションであり、和食レストランも多いため、日本からの食品や飲料の需要は高く、日本酒の輸出が近年拡大していると話されました。

続いて、観光分野について、地元の釧路市産業振興部観光振興室・観光開発主幹冷川圭之氏が、釧路市の「香

港ブックフェア」出展の取組みをご紹介されました。釧路市は、2016年7月の香港ブックフェアに出展し、人気マンガ「僕等がいた」（釧路市の高校が作品舞台の1つ）を前面としたブース展開、「折り鶴教室」や丹頂鶴をモチーフにしたキャラクター「つるまる」を活用して、観光誘致PRを行いました。釧路の観光の魅力を発信し、個人旅行客の誘致促進を図る上で、効果的なプロモーションができたとのこと報告がありました。

続いて、(株)インプラントイノベーションズ代表取締役高根健一氏から、植物の持つ機能をバイオ技術を用いて高める「植物バイオビジネス」をご紹介されました。また、香港で環境博に出展された際に、植物栽培用LEDの反響が大きく、植物工場や栽培に関する世界的な関心の高さを感じたと話されました。

最後に(株)ANA Cargo、ソリューション企画部企画課アシスタントマネージャーの古賀謙一氏から、沖縄ハブを活用した国際物流について、釧路圏の農産物輸出について取組事例や地方自治体との連携などを解説いただきました。

香港貿易発展局のセミナーに初めて参加される方がほとんどでしたが、セミナー全体の印象はおおむね良好でした。また、道東エリアの中心都市である釧路を会場とし、地域に関連したトピックを幅広く盛り込んだ内容でしたが、各テーマの時間をもっと十分にとってほしかったとの感想も一部聞かれました。いずれにせよ地域の企業にとって、海外でのビジネスを展望する上で、きっかけ作りになったことは間違いなさそうです。

これを機に、釧路地域の関係機関とも連携し、香港貿易発展局やその他支援機関と協力していくことで、具体的なビジネス展開を応援していきたいと思えます。



香港ブックフェア出展の取組みを紹介される釧路市産業振興部観光振興室観光開発主幹冷川圭之氏



植物バイオビジネスについて講演される(株)インプラントイノベーションズ代表取締役高根健一氏



宮城日本香港協会 事務局

2017春節セミナー&パーティーを開催

2月8日(水)2017春節セミナー&パーティーをパレスへいあんに於いて開催しました。寒い中、85名もの参加者を得て、宮城県副知事の若生正博氏、仙台市副市長の伊藤敬幹氏、そして香港貿易発展局日本首席代表のスーザン・ラム氏を来賓に迎え、盛大に開催することができました。

セミナーでは「香港ビジネスを成功に導くグローバル人材確保と体制作りについて」と題して、サイエスト株式会社代表取締役CEOの李嘉章氏から、約30分にわたって講演がありました。

「今、中国・インド・東南アジア・南米などの経済市場が急成長、人口減少の日本市場を補い、かつ上回るマーケットが存在する中、語学力+行動力+発信力を持ったグローバル人材が求められている。サイエストには元上場企業の

役員OBやグローバル企業のトップエグゼクティブを中心に3,000名を超える海外ビジネスのエキスパートタレントが所属、香港に本部を置いてトレーディング事業部を立ち上げ、カリフォルニアワインの香港輸出プロジェクトなどを手掛けている」との内容でした。

第2部はパーティーです。花を添えたのが山形県尾花沢市出身の歌手・奥山えいじ氏の演歌です。地元に近い山形県出身ということもあり、何となくほのぼのとした中で、持ち歌「はぐれ雪虫」に参加者一同聞き入ってしまいました。



セミナー会場風景



パーティー会場で一同に

広東語教室で恒例の春節パーティーを開催

1月28日(土)午前11時から、講師の荒川先生のお宅で、恒例の春節パーティーを開催しました。つい先日東京の会社に勤めた小林幸一さん、以前教室に参加していただいた本郷正樹さん・林祝平さんご夫妻と子



春節パーティー、みんなうれしそうです

供さん、そして和室工房を手掛ける石井洋さんも参加して、総勢8名の参加となりました。いつもながら荒川先生の手料理に、参加者一同おいしいの連続で、香港の食を堪能することができました。また、教室メンバーの安達康子さんが香港から取り寄せた特製のフライパンで鶏蛋仔を焼いてくれました。ココナッツ風味でとてもおいしかったですよ。

最後に荒川先生に香港風のお茶を振る舞っていただき、アツという間に夕方の5時、別れを惜しみ再開を約して散会となりました。





沖縄日本香港協会

石嶺伝一郎氏が新会長に就任

平成28年11月16日(水)、沖縄日本香港協会の総会が開催されました。

平成27年度事業報告・収支決算および平成28年事業計画・収支予算が了承され、その後役員を選任が行われ、新たに役員が選任されました。

会長 石嶺 伝一郎 (沖縄県商工会議所連合会会長)

事務局長 福治 嗣夫 (那覇商工会議所専務理事)

その後、香港ビジネスセミナー「アジアのビジネスゲートウェイとしての香港～食品や伝統工芸品など多様な商品を受け入れる香港市場」が開催されました。

このビジネスセミナーは香港が、中国の特別行政区として中国本土とは異なる法制度が適用され、自由でオープンな経済環境が整えられおり、国際的なビジネス、貿易、金融のハブとして、ビジネス統轄拠点などにより中国本土や東南アジアを結ぶ要としても活用されていることと共に、香港が居住者730万人に加え、年間約6,000万人の来訪者がある巨大な市場としての魅力も持ち、日本の食品のみならず伝統工芸品など多様な商品を受け入れるマーケットであることから、そのビジネスの可能性を探る目的で開催され、会員のみならず多くの関係者の参加を頂きました。

春節・香港ビジネスセミナー2017 in 沖縄 開催

平成29年2月17日(金)、ネストホテル那覇にて「春節・香港ビジネスセミナー2017 in 沖縄～香港人が語る香港ビジネスの要点」が、香港貿易発展局と沖縄日本香港協会との共催で開催されました。

香港貿易発展局大阪事務所の伊東正裕氏より「香港概要と最新マーケット事情」と題して香港の経済状況を中心に講演頂きました。

「香港のマーケットは、2014年から中国本土からの渡

航者及び一人当たりの消費量が減少している。特に高級ブランドや高額なサービス・企画が減少しているが、中級ブランドや飲食業等はあまり影響を受けていな

い、家賃の下落も見られることから、商機が創出されていること」「飲食業や輸入食品の取扱高は伸びており、健康志向や品質への関心が高いこと」が報告されました。

香港の戦略的重要性については、中国本土へのゲートウェイ、華人ネットワークのゲートウェイ、国際社会へのゲートウェイを挙げ、香港は単に送りだすだけの「ハブ」ではなく、日本独自のノウハウや企業文化がグローバルな企業文化への変換できる双方向の機能を持つゲートウェイであると強調されました。

その後、「香港人が語る香港ビジネスの要点」と題し、アルフレッド張氏の講演頂きました。張氏は、香港の銀行口座の開設方法を挙げながら、香港は法人税が低く起業しやすい環境であると語りました。

また、物流の専門家である張氏は、那覇空港の貨物ハブを高く評価し、航空路線ネットワークと地理的優位性から、今後も伸びていく可能性が充分にあると語りました。

一方、沖縄の海上輸送に関しましては、沖縄からの空荷のコンテナが多く、輸入と輸出の不均衡が、コスト高となっていることが報告され、FTZ機能の拡充や混載輸送の促進、ロジスティック・プロバイダーへのインセンティブの提供等の改善対策の提案を頂きました。

セミナー終了後、懇親会を開催、名刺交換等を行いながら、情報交換、親交を深めました。香港の現在のマーケットの状況説明や沖縄のロジスティックスの問題提起など、有意義なセミナーとなりました。



アルフレッド張氏の講演



春節セミナーの様子



来賓と当会役員での乾杯



広島日本香港協会事務局 水野 修一

日本香港協会全国交流会に参加

平成28年11月28日、香港での香港フォーラムに併せ開催された日本香港協会全国交流会に参加しました。日本全国の10協会全てが香港に集まり開催されたものです。広島からは4名と他団体に比べるとやや少人数でしたが、普段会うことのない多くの方との名刺交換や情報交換ができ、大変意義のあるものとなりました。

会場では北海道日本香港協会の会員の方々と同じ卓となり、協会活動の話題を中心に深く交流を行うことができました。日本国内では、広島と北海道ではずいぶんイメージの違った土地柄ですが、国外から見ると共通点も多く、「地方都市」としての工夫が双方にされていました。ニセコ地区への外国からの観光、投資状況をお聞きし、景気の良さに驚かされました。地方における経済活性化の事案を具体的に聞くことで広島にとってもおおいに参考となりました。

広島日本香港協会の会員は企業が9割以上を占めていますが、このような機会ですぐれた情報や、香港のリソースを活かしたビジネスに直結する情報を会員に届けていきたいと思えます。



日本香港協会全国交流会の様子

香港広島県人会との懇親会を開催

平成28年11月29日、香港広島県人会（会長：石原直氏）との懇親会を開催しました。当日は香港に在住の広島企業駐在員7名とフレッド・カン法律事務所の武藤鍊太郎氏にご参加いただき、広島日本香港協会会員・事務局と合わせ総勢12名の会となりました。今回で4度目となるこの会ですが、初めて参加いただく方もおり、香港の最新事情や広島に関連した話題（今回は特に広島カーブの話）で大変盛り上がりしました。

また、香港広島県人会の皆さんは普段からとても仲よく交流されているようで、事務局としても嬉しく思います。香港の第一線で活躍されている方々との会話は、とても刺激的で関心のある話ばかりで、2時間余りの時間はあっという間に経ち、1年後の再会を約束し閉会となりました。



香港広島県人会との懇親会

春節意見交換会を開催

3月9日、リーガロイヤルホテル広島にて「春節・意見交換会」を開催しました。

広島日本香港協会から役員7名、香港貿易発展局からスーザン・ラム日本首席代表、伊東大阪事務所長、小峰貿易引合主任にご参加いただきました。

当協会の深山会長は、昨年香港で行われた香港ブックフェアへの出展の報告に続き、「今後一層、香港と広島をつなぐ役割を果たせるよう事業を進めていきたい」と挨拶しました。続くスーザン・ラム氏の挨拶では、「広島にはたくさんの優れた産業があり、多くの分野で連携できる可能性がある」と海外市場への展開を進めていくうえで、香港を効果的なプラットフォームとすることを期待されました。その後、伊東氏より「アジアのビジネス・ゲートウェイ～香港を通じて世界へ」と題し、今、香港で、日本への観光や食品への関心が一層高まっていること、中国だけでなく世界のゲートウェイとして香港を活用してほしいことなどの講演をいただきました。

講演のあとは円卓を囲み、活発な意見交換がされました。参加いただきました皆様方、ありがとうございました。



春節意見交換会集合写真



新潟日本香港協会

香港フォーラム2016へ参加



香港フォーラムの様子

今回で第17回を迎え、世界24カ国33団体のビジネス協会世界連盟の全メンバーが世界各国より一堂に会する年1回の世界会議で、香港協会のメインイベントでもある香港フォーラムに、吉田会長、渡部副会長、田中事務局長、他会員4名が参加しました。香港フォーラムは、2016年11月29日(火)、30日(水)の2日間にわたって開催され、11月28日(月)には前夜祭として全国協力交流会も開催されました。一行は久保田米業(香港)有限公司の視察を行った後、全国協力交流会、香港フォーラムへ出席し、世界各地の香港協会メンバーとの交流を図り、人脈づくりと香港進出への足掛かりとなる情報収集を行いました。香港フォーラム終了後には、現地でご活躍されている香港三井物産董事長兼総経理の西村氏との夕食交流会を開催し、現在の香港の最新マーケット事情や現地駐在員としてのご経験など様々なお話を伺うことができました。

翌日は香港から直通列車にて広州へ移動、孫文が創設した大学として著名な中山大学へ伺いました。大学では、前香港貿易発展局日本首席代表で現在は中山大学特任教授である古田茂美氏よりアテンドをしていただき、大学コレクションの骨董彫刻を見せていただいたり、孫文像や孫文寄贈の図書を見て歴史を振り返り見聞を広めたりすることができました。夜は、古田氏と在広州日本国総領事の齋藤氏と共に、広州三大酒家の一つである洋



孫文像の前で記念撮影

溪酒家に於いて夕食会を開催し大いに盛り上がりをもせた会となりました。

当協会では、より多くの会員の皆様が香港フォーラムへ実際に参加していただき、香港の生の情報を直接肌で感じていただくべく、協会独自のツアーの内容を更に充実させ、参加の呼び掛けを行っていきたいと思います。

2017年春節セミナー&パーティーを開催

新潟日本香港協会では、去る2月13日(月)にホテル日航新潟に於いて香港貿易発展局との共催で2017年春節セミナー&パーティーを開催いたしました。



春節パーティーの様子

当協会からは吉田会長、仙石副会長ら11名の役員が、香港貿易発展局からは日本首席代表のスーザン・ラム氏、東京事務所次長の門田弘蔵氏にご参加いただきました。当日は吉田会長による開会挨拶の後、セミナーがスタートしました。講師には、日本の優れた人材、企業、サービスを世界に幅広く発信しグローバル化支援を行うサイエスト株式会社代表取締役CEO共同創業者の李嘉章氏をお招きし、「香港を活用した越境EC攻略とサイエスト香港の活動紹介」と題してご講演いただきました。李氏からは、世界最大のマーケット規模である中国のEC市場の現状、参入におけるメリットとデメリットから、香港を活用した越境ECについて分かりやすく解説していただき、大いに有意義なセミナーとなりました。

第二部のパーティーでは、主催者代表として吉田会長が挨拶を行い、続く香港貿易発展局日本首席代表のスーザン・ラム氏の挨拶では新潟と香港の友好関係のさらなる発展に向けた抱負を述べていただきました。そして、今年2月に新たに総領事に就任された中国駐新潟総領事館の孫大剛氏の乾杯発声のもとスタートしました。会員・関係者は名刺交換をしながら懇親を深め春節に相応しい賑やかな会で幕を閉じました。



孫大剛氏によるご挨拶



高知日本香港協会

初めての“春節セミナー&パーティー”開催

高知日本香港協会は、2016年6月1日に発足し、今回初めての春節を迎えました。高知では、3部構成で春節のイベントを開催し、第1部は香港への輸出ビジネスに長けたアドバイザーを5名招いて（日本貿易振興機構高知貿易情報センター貿易アドバイザーの渡部郁子氏、香港貿易発展局大阪事務所所長の伊東正裕氏、阿巴久株式会社社長アルフレッド張氏、日本通運株式会社高知支店課長大捕弘士氏、当協会副会長鍵山武男）、参加者との「ビジネス相談会」を開催いたしました。相談会では、高知の地元の食品、日本酒の酒蔵という今も香港に向けて人気の高い品種だけでなく、岡山県で活躍をされている米粉パンの製造企業や高知で古くから愛されている伝統工芸品としての染色工場など、新しいチャレンジとして取り組もう！キッカケを掴もう！とされている方々にもお集まりいただきました。

アドバイザーの5人の視点からは、どの商品も可能性に溢れている点で激励をいただき、商品の特性に沿った具体的な展開までを教えていただくことができました。福岡や岡山など、県外からお越しいただいた参加者の方々にとっても希望に満ちた時間となっていました。日本から海外への「輸出」は、近年では工業製品から始まり、「Made in Japan」のブランドが確立した後、輸出先の現地の生活に沿う「日本酒・焼酎」ブームが起きました。そして、そのアルコールに合う食事として「和食」ブームが起き、現在の日本の食品の安全と信頼にまでつながり、「食品」ブームが起きていると聞きます。そして、現地ではソフト面にまで「日本の文化」が注目されるようになり、香港では畳を使った部屋が増えていて、日本文化への憧れが増しているとお話がありました。その中で、今後は日本の日常生活やライフスタイル、日ごろ使っている日用品にまで注目が集まっていく流れを見越して、今回のような米粉パン、伝統工芸品などは3~5年後の次のブームの先駆けとして、とても可能性のある！と高知の一次産業のみならず、次の輸出品として伝統文化、伝統工芸品にまでスポットライトが当たる日がやってきているのを感じることができました。

続く第2部では、阿巴久株式会社社長アルフレッド張



アルフレッド張氏のセミナー風景

氏に「香港・中国でのビジネス事情と日本食ブームに関して」をテーマにご登壇いただき、セミナーを開催いたしました。張氏には、香港でビジネスを行う

ための起業の方法や銀行口座の開設の方法など、具体的な海外ビジネスの始め方からお話をいただき、日本よりも法人税が安いことや中国国内に向けての商品展開のしやすさや関税のことなどのメリットも理解でき、今後、注目を集めそうな商品の話題など、最新情報を聞くことができ、勇気を得た方も多いようです。驚いたことは、将来はインターネットでの輸出ビジネスが8割を超すかもしれない、とのこと。これまでの大企業での輸出から中小企業&個人でも輸出ができるようになるという新しい輸出構造ができる可能性を感じて、将来への期待も高まりました。

その後、高知大学土佐フードビジネスクリエイターの特任助教の栗田せりか氏にご登壇いただき、「高知大学と香港との取り組みについて」というテーマで高知大学と学生との1年間のチャレンジを示していただき、参加者へのよい刺激になりました。

最後は香港貿易発展局の大阪事務所次長田中洋三氏から、「香港貿易発展局の活動の紹介」をお伝えいただき、日本香港協会に入会することで開ける可能性の道筋をわかりやすく解説していただき、春節セミナーを終えました。

第3部では、高知日本香港協会では大切な飲みケーション！春節のパーティーでは、日本首席代表のスーザン・ラム氏にご挨拶をいただき、今後の高知での活動を広げるサポートなどのお話もいただき、乾杯のご発声いただいた大阪事務所の伊東正裕氏には、これからは個人ではなく、チームや団体が盛り上がっていくことがポイントであるという時代の流れを教えてくださいました。その応援パワーのおかげさまで、参加者の中から早速、2017年度の香港フォーラムへ参加します！と宣言をしていただいた方もいらっしゃいました。

高知日本香港協会では、会員のビジネスのサポートを行いながら、他団体とのコラボも検討し、県との協力も含めた活動を行っていかうと考えております。高知を含む四国一円は独特の文化が今も根付いています。世界に向けた発信を行っていき、日本文化の色濃く残る価値ある地域です。高知でしかできない、オリジナルの取り組みにもチャレンジをしていきたいと存じます。



“春節パーティー”最後に参加者のみなさまと記念撮影



キャセイパシフィック航空なら、
日本から香港へ、毎日20便以上*。



 **CATHAY PACIFIC**

Life Well Travelled

*キャセイドラゴン航空とのコードシェア便および台北経由便を含む